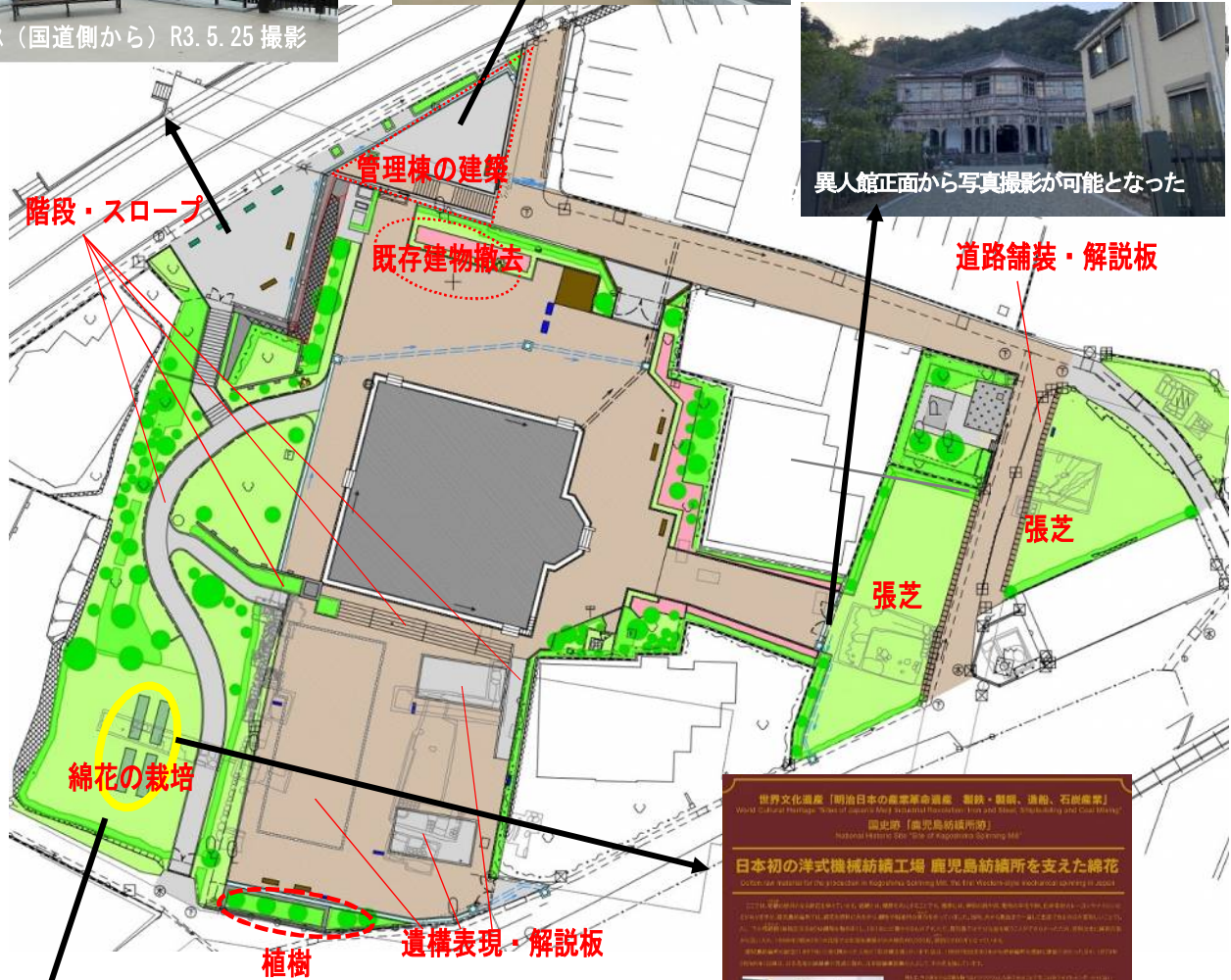


# 異人館周辺整備のポイント



整備の全体面積：約 4,400 m<sup>2</sup>

### <整備方針>

- (1) 史跡を構成する重要な要素である異人館や周辺の地下遺構等を適切に保存  
→管理棟の建築及び老朽化した建物の撤去（防火対策を含む）
- (2) 歴史的な価値を現地でわかりやすく解説→建物跡等の遺構表現、解説板の設置
- (3) 創建時の雰囲気などを感じながら、散策し憩うことのできる快適な空間を創出  
→スロープや展望スペースの設置、四季折々の植栽整備

### <エリア区分>



異人館周辺が辿った変遷の過程を考慮に入れ、整備対象地を下記の3エリアに区分。各エリアの歴史的背景及びその特性を活かした整備を行った。

- (1) 創建時エリア：慶応3年(1867年)、創建当時の技師館及び付属施設の地下遺構を中心とするエリア
- (2) 移築後エリア：昭和11年(1936年)に再移築された技師館を中心とするエリア
- (3) 道跡エリア：江戸時代からほぼ変わらない区画や道跡遺構を中心とするエリア

<主な整備箇所>

1. 遺構表現：発掘調査の成果や古写真をもとに建物跡を地表面に表示した。



2. 舗装：史跡の価値を表現した地表面は土系の舗装とし、異人館周辺の砂利舗装と区別した。なお、異人館周辺の砂利については、車椅子やヒールでも動きやすい舗装材としたほか、専門家（カラーコンサルタント）の意見を踏まえ、建物に合う色調とした。



異人館の穏やかで上品な雰囲気と調和する砂利。六角形に見える舗装材を使うことで、砂利がえぐれず、ちらばりにくくなる。

3. 園路整備：敷地全体を回遊できるようスロープや階段を設置するとともに、各エリアの歴史的変遷を理解しやすくするため、舗装の種類をわけた。(例：創建時エリアの園路は土系の舗装、移築後エリアから創建時エリアへ続く園路は平板舗装など)

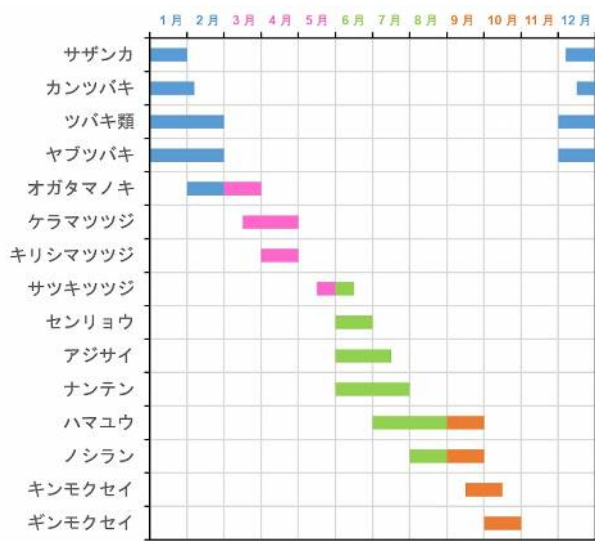


整備前は敷地に高低差があったが、スロープや階段を整備することで、直接行き来できるようになり、敷地全体の回遊性が高まった。

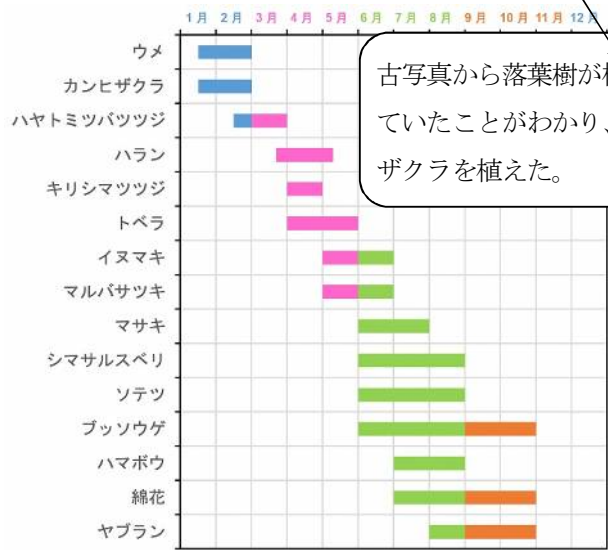


赤線の道は江戸時代から続く道跡で、土系の舗装で表現した。

4. 植栽整備：四季折々の花を楽しめるほか、磯地区全体での景観的調和も図った。



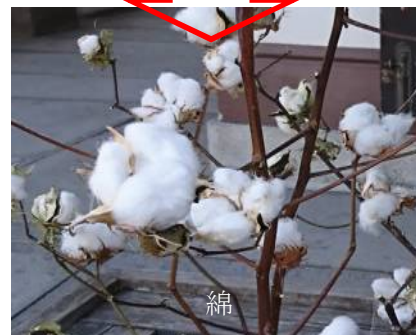
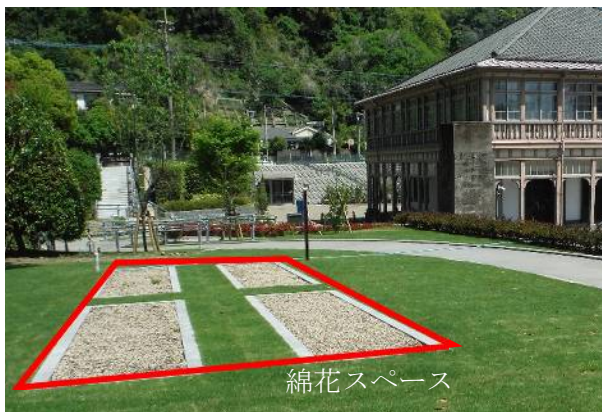
既存の植栽の開花イメージ



新植する植栽の開花イメージ

古写真から落葉樹が植えられていたことがわかり、カンヒザクラを植えた。

◎鹿児島紡績所と関係の深い綿花の栽培



鹿児島紡績所で使われていた綿花を栽培することで、異人館が紡績に関する建物であることや、同じく世界遺産の富岡製糸場とは原料（蚕）が異なることなど理解を深めてもらう。  
また、秋頃には綿を活用したイベントも検討する。

5. 外構：景観への影響が最小限となるシンプルなものにしたが、古写真などで確認できる場所は石塀や生垣とした。



正門のレンガは石張りし、舗装も自然石舗装とした。

6. ライトアップ：機器を更新するとともに新たに錦江湾側からもライトアップし、異人館をより魅力的に演出する。（日没後から午後9時までの予定）



## 7. 展望スペースの設置

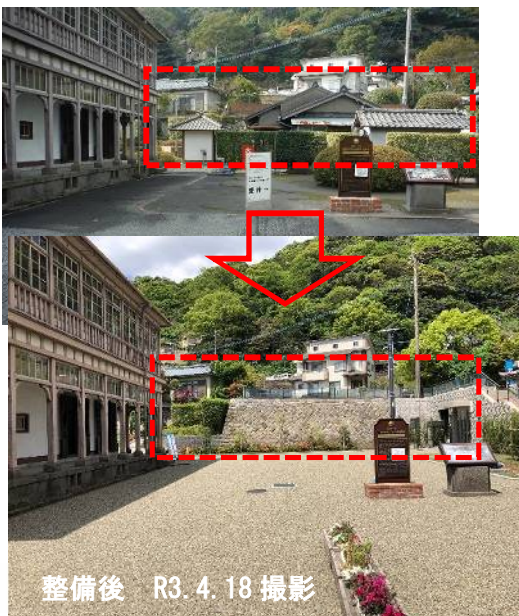


整備前は防犯や安全面から敷地内へは立入禁止としていたが、整備後は異人館を間近に見ることができるよう展望スペースを設置した。また、ベンチを設置し、バスを待つ方の待機場所としても活用できるようにした。

## 8. 休憩スペースの設置（令和元年度）：休憩スペースやトイレを備えた管理棟を建築するとともに、異人館の敷地内にあった老朽化した旧管理棟などを撤去した。

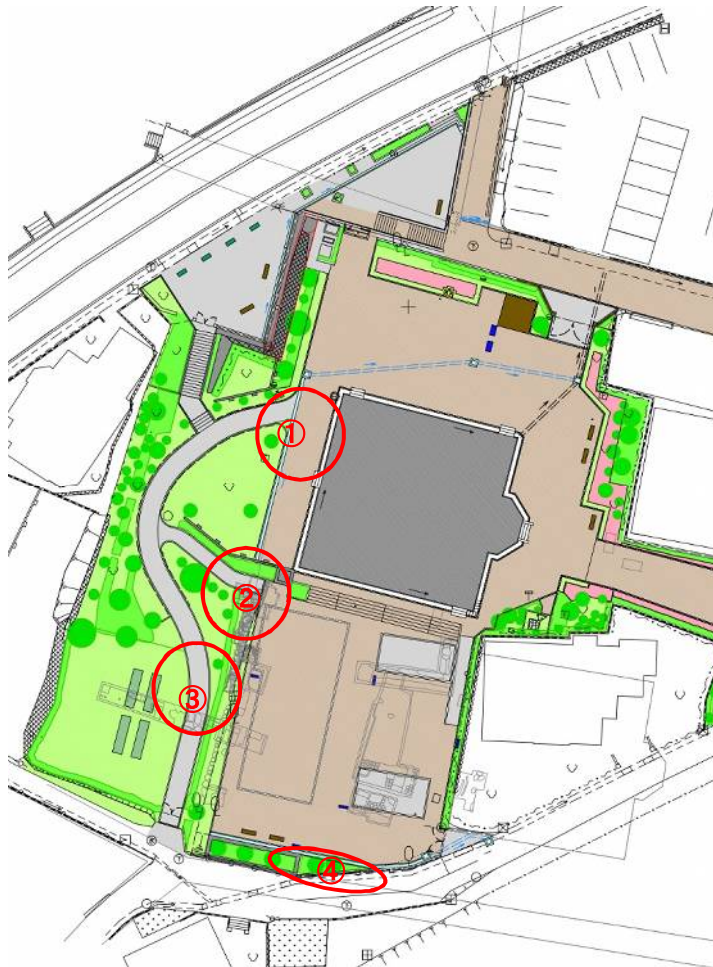


整備前（写真は平成24年頃）は民間のビルが建っていたが、異人館を核とした周辺の一体的な景観形成を図るため、土地を購入し、老朽化した既存建物（管理棟やトイレ）を集約した。なお、新しい管理棟は周囲の景観に溶け込むよう国道の擁壁と調和した石目調の外壁とした。



9. その他（整備に伴い、新たに確認した遺構）

※いずれの箇所も遺構の保存のために設計を変更して施工した。



①寛永通宝等の小銭が複数枚出土



②石垣の形状が想定と異なっていた（黄ではなく赤だった）



③園路整備箇所の下に遺構を確認（詳細は右）



③石製の井戸枠



④道路との境界下に石積を確認



④創建時の敷地の境界を表す石塚の可能性あり